

11月11日～12月12日
電池月間



でんち

社団法人 **電池工業会**

BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5-8
機械振興会館内

電話(03)3434-0261(代)
E-mail. bajaapan@hi-ho.ne.jp
ホームページ http://www.baj.or.jp/
振替口座 東京8-91022
発行人 木村侃丘
定価1部郵送による年決め2,400円

平成14年3月1日

BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

平成13年度 第4回二次電池部会開催

平成14年2月6日、機械振興会館において、山崎部会長（日本電池（株）専務取締役）を議長に、第4回二次電池部会（鉛5社）が開催された。

冒頭に、山崎部会長の挨拶があり、続いて木村専務理事から特別組織の設立と事務局報告、そしてリサイクル委員会からのスキーム構築案に関する報告と審議が行われた。

1. 事務局報告

- 1) 特別の新組織「自動車電池リサイクル特別プロジェクト委員会」を平成14年1月に設立した。この委員会は、自動車リサイクル法の制定を2004年4月に控え、(社)日本自動車工業会等関連諸団体と連携し、使用済み自動車用電池（二輪含む）新リサイクルシステムの早期構築を目的とした各社の特命メンバー構成で二次電池部会直属の委員会である。
- 2) 2001年度上期の鉛電池回収率は103%、再利用率は99%の実績であった。
- 3) 「自動車装置のリコール制度導入」に関する反対意見書の紹介

2. 自動車用電池のリサイクルスキーム案審議

- 1) 回収・再資源化の費用を排出者に求める。
- 2) システム構築にあたり、(社)日本自動車工業会と十分な協議をする。
- 3) 法の配慮を求める。(指定再資源化製品の指定、

一般廃棄物処理施設設置許可不要化措置)

- 4) 外部コンサルタントの導入検討。

3. 部会了承事項

- 1) 自動車電池リサイクル特別プロジェクトの組織構成、位置付けは事務局提案通りとする。
 - 2) 回収・再資源化の基本として、無償回収から有償回収へ移行する。
 - 3) 自動車用電池の指定再資源化製品への指定を受けるため、関係省庁と協議する。当面は二輪車用電池を先行する。
- 但し、前提条件は、廃掃法等法律の配慮を得られることが明確になった場合である。

4. 今後の取組み

- 1) 新車用電池の取扱いについては各社再確認。
- 2) 電池業界が回収リサイクルの運用管理にどこまで関与するのか運用管理体制の検討が必要。
- 3) 第三者機関を設置して進める場合の管理範囲、費用等の確認。
- 4) 外部コンサルタントを導入する場合の費用捻出については工業会として提案。
- 5) 二輪車用電池のリサイクルスキーム案に関して、費用等の全体の流れを明確にする。
- 6) 有償回収へ移行することの表明時期の設定。

JIS「水溶液系一次電池の安全性」制定

JIS C 8514-2001「水溶液系一次電池の安全性」が新たに制定され(平成13年12月20日)、このたび規格書として発行された。

電解液に水溶液を使用している一次電池は、マンガン乾電池、アルカリ乾電池、酸化銀電池、アルカリボタン電池及び空気亜鉛電池などが生産、販売されている。

水溶液系一次電池は、正しく使用した場合には、安全で信頼できる電源である。しかし、もし間違った使い方や、誤使用をした場合には、漏液や極端な場合には、破裂、発火の恐れがあり、従って設計、生産、流通、使用、廃棄などのあらゆる過程で、安全事故に係わる細心の注意が必要である。

JISでは、これまでに既にJIS C 8501:1975「マンガン乾電池」において「取扱い上の注意事項」で、トラブル発生の事前防止の観点から具体的な指針を明文化してきた。また、電池工業会では、1999年2月に「乾電池使用機器の電池室・端子安全設計ガイドブック」も作成して、関係団体に配布するなどの啓蒙活動を行ってきた。



今回、このJIS規格は、2000年に国際規格IEC 60086-5(Safety of batteries with aqueous electrolyte)第1版が発行されたのを受けて、このIEC規格と整合性を取ると共に、この国際規格には制定されていない規定項目及び内容をJIS規格として変更、追加して作成されたものです。

平成14年度 蓄電池設備整備資格者 講習会日程・会場きまる

地震や火災での停電等非常事態になくてはならない蓄電池設備は、その必要性から消防法施工規則(昭和36年自治省令第6号)でその構造および技術基準が定められているが、平成12年末消防法施工規則で、消防用設備等が適合していることの認定を行う法人は申請し、総務省消防庁の指定を受けて行うこととなり、昨年の5月31日付けで弊工業会は、「蓄電池設備」について総務大臣の認定を受けた認定機関「(社)電池工業会 蓄電池設備認定委員会」として審査、同設備の技術基準の維持に努めている。

長期間使用される、蓄電池設備の市場における性能と信頼性を確保するためには、専門知識を有する技術者による管理が不可欠であり、この蓄電池設備の維持管理に携る設備整備技術者の育成を昭和53年より毎年実施している。

平成14年度「蓄電池設備整備資格者講習」については、7月2日・3日の北海道を皮切りに全国9箇所で開催することが決定した。

現在、14年度講習会の詳細(講習会の手引き)を



準備中ですが、4月初旬には完成するので、受講を希望される方は、全国各地の申請書提出先又は(社)電池工業会へお問い合わせ下さい。

又、5年毎に行う再講習については、例年通り各地区で行うが、詳細決定しだいで本人宛直接-文書でご連絡致します。

尚、当該年度該当の方で住所変更の届けを忘れている方は、大至急(社)電池工業会の講習担当事務局あてご連絡下さい。

蓄電池設備整備資格者講習実施予定表 (平成14年度)

実施地	実施月日 (定員)	講習会場	申請書提出先	申請期間 (申請方法)
北海道	7月2日(火) 3日(水) (100名)	北海道建設会館 札幌市中央区北4条西3丁目 TEL 011-261-6218	(社)北海道消防設備協会 〒060-0005 札幌市中央区北5条西6-2 札幌センタービル内 TEL 011-205-5951	5月28日～6月10日 (郵便又は持参)
愛知県	8月28日(水) 29日(木) (200名)	愛知県産業貿易館 西館 名古屋市中区丸の内2-4-7 TEL 052-231-6351	(財)愛知県消防設備安全協会 〒461-0011 名古屋市中区白壁1-50 愛知県白壁庁舎2階 TEL 052-962-0707	7月2日～7月10日 (郵便又は持参)
岩手県	9月10日(火) 11日(水) (100名)	岩手県自治会館 盛岡市山王町4-1 TEL 019-622-6171	(財)岩手県防災保安協会 〒020-0816 盛岡市中野2-2-14 TEL 019-653-1141	7月22日～8月9日 (郵便又は持参)
大阪府	9月25日(水) 26日(木) (200名)	大阪府農林会館 大阪府中央区馬場町3-35 TEL 06-6941-0821	(財)大阪府消防設備協会 〒540-0032 大阪府中央区天満橋京町2-13 松村ビル TEL 06-6943-7654	8月19日～8月30日 (郵便又は持参)
東京都	10月2日(水) 3日(木) (250名)	第2電波ビル 千代田区外神田2-14-10 TEL 03-3253-9151	(社)電池工業会 〒105-0011 港区芝公園3-5-8 機械振興会館 TEL 03-3434-0261	8月26日～8月30日 (郵便又は持参)
徳島県	10月16日(水) 17日(木) (50名)	徳島県JA会館 徳島市北佐古1-5-12 TEL 088-632-1111	(財)徳島県消防設備保安協会 〒770-0939 徳島市かちどき橋1-41 徳島県林業センター TEL 088-622-7377	8月1日～8月30日 (郵便又は持参)
茨城県	11月19日(火) 20日(水) (100名)	水戸市民会館 水戸市中央1-4-1 TEL 029-224-7521	(社)茨城県消防設備協会 〒310-0063 水戸市五軒町1-4-19 茨城県酒造会館内 TEL 029-226-9611	10月1日～10月18日 (郵便又は持参)
神奈川県	12月4日(水) 5日(木) (230名)	神奈川県電気工事会館 横浜市中区三吉町4-1 TEL 045-251-4671	(財)神奈川県消防設備安全協会 〒231-0023 横浜市中区山下町1番 シルクセンター2階 TEL 045-201-1908	10月1日～11月20日 (郵便又は持参)
福岡県	1月16日(木) 17日(金) (70名)	福岡市民防災センター 福岡市早良区百道浜1-3-3 TEL 092-847-5990	(財)福岡県消防設備安全協会 〒810-0073 福岡市中央区舞鶴3-9-7 福岡市消防局内 TEL 092-722-1265	12月3日～12月26日 (郵便又は持参)

(注) 定員になり次第締め切りますので、申請期間内早めに申請して下さい。

小形二次電池再資源化推進センター便り

小形二次電池の回収状況(1月末現在)

	ニカド電池	ニッケル水素	リチウムイオン	小形シール鉛
本年度回収目標量	700t	100t	300t	30t
1月度単月実績	34t	1.9t	38.5t	1.1t
年度累計実績	467.6t	35.5t	280.7t	24.7t
前年同期比(累計)	94%	74%	120%	99%
目標量進捗率	67%	35%	94%	82%

ホームページ：<http://www.jbrc.com>

業界動向

***NTTドコモ** 第三世代携帯電話で、2002年春に音声通話が可能なPDAタイプを市場投入へ。(1月4日付 日刊工業)

***日立製作所** クリーナービジネスが活性化化する中で、同社の主力機種である「グリーンボール」の出荷が好調で、シェアを拡大中。(1月4日付 電波)

***三洋電機** 今月から北米で普及中のCDMAONE方式の携帯電話を中国で生産・販売する。(1月4日付 日経)

***新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)** 世界で初めての固体高分子電解質水電解型と、天然ガス改質型の2タイプの水素ステーションの実証設備が完成した。(1月4日付 日刊工業)

***ホンダ&GM(米)** 自動車のリサイクル分野で提携。ホンダは廃車の回収でGMグループの欧州拠点を活用へ。(1月7日付 日経)

***電子書籍** PDAを用いた電子書籍の愛好者が、大容量通信の普及が追い風になり増加中。(1月8日付 日経)

***オリンパス光学工業** デジタルカメラを中心とした映像事業の再編を4月1日付で実施する。最終的には銀塩カメラを含めたカメラ生産の大部分は中国に移管の考え。(1月8日付 日刊工業、日経産業&化学工業日報)

***NEC/NECソリューションズ** 2001年度パソコンの国内出荷を300万台に見込んでいた。今後はブロードバンドとモバイルを軸に成長を目指す。(1月8日付 電波)

***松下電器産業** 持ち易さを重視した小型で470グラムと軽量のデジタルビデオカメラを2月20日から発売する旨を発表。ファインダー使用時の最大撮影時間は約3時間5分。(1月8日付 日経&日刊工業)

***日立製作所** マイクロソフトのOS「ウィンドウズCE.NET」を搭載したPDAを6月までに製品化、PDA事業に参入へ。(1月9日付 電波&日刊工業)

***松下電器産業&松下電池工業** 業界最高水準の放電特性を実現したアルカリ乾電池単三、単四サイズを3月1日に発売する旨を発表。(1月9日付 電波、電波&化学工業日報)

***東芝** 近距離無線規格「ブルートゥース」を使った世界初のヘッドフォン型のモバイル端末を開発した旨を発表。2002年の商品化を目指す。(1月9日付 電波、日経産業&日刊工業)

***阪神交通** 米国製の豪雨でも使用可能な全天候型暗視スコープを発売した。電源はリチウム電池。(1月9日付 日刊工業)

***三菱電機** 欧州の携帯電話生産拠点で2.5世代機など高級機の開発・受託生産事業を立ち上げる方向で検討に入る。(1月10日付 日刊工業)

***三菱重工&中部電力** 共同開発した固体酸化物型燃料電池(SOFC)が、これまでの記録を更新、7500時間の発電に成功した。(1月10日付 日経産業)

***米国政府** ガソリン車の燃費向上を軸に進めて来た従来の環境計画を大幅に転換、燃料電池車の開発支援に乗り出す。(1月10日付 日経)

***住友電気工業** 3月に中国(無錫市)で電子部品の生産を開始。充電式電池の電極材料等を日系の電子部品メーカーを中心に発売へ。(1月10日付 日経産業)

***ゼロスポーツ**(岐阜県) 自動車の後付け部品メーカー) 4月から自社開発のEVの全国販売に乗り出す。2002年度の販売は、360台を予定。(1月10日付 日刊工業)

***松下電器産業** 壁際、絨毯両方での高集塵を実現したコードレス吸尘器を、2月20日から発売。電源はニッケル水素電池。(1月10日付 電波)

***経済産業省** 環境・資源循環の観点からJISの整備に本格的に乗り出す。アクションプランを作成する為の検討を開始。4月下旬までには結論を出す予定。(4月10日付 化学工業日報)

***YUASA** 液体メタノールを水素に変えずに、直接燃料として使う直接メタノール型燃料電池(DMFC)を開発した。二年後を目処に商品化を目指す。(1月10日付 日経産業)

***日本ガイシ** 大容量の電力をコンパクトに貯蔵できるナトリウム・硫黄電池の量産設備を建設。第一期工事で年間6万キロワットの生産能力を予定。(1月11日付 日刊工業)

***関西電力** 東北、北陸、九州の各電力会社、日本電池&パーク24と共同で、電動スクーター、福祉型電動車などの小型電気自動車向けの充電スタンドを開発した。(1月11日付 日刊工業&日経産業)

***GM(米)** デトロイト市で開催の北米国際自動車ショーで新型燃料電池車のコンセプト車を発表した。(1月11日付 日経夕刊)

***東京理科大学** 工学部齋藤教授、燃料電池用水素の貯蔵・輸送媒体に軽くコンパクトな炭化水素系液体デカリンを使う手法を開発した。ガソリンスタンド等既存インフラが使えることから注目されそう。(1月11日付 日刊工業)

***NTTドコモ・マルチメディア研究所** PDAやノートPCを電話機として使えるようにする新技術を開発した。(1月11日付 日経)

***タイガー魔法瓶** 湿気の溜まり易い押入れ、下駄箱など場所を問わずに置ける充電式除湿機を開発した。使用時間は一回の充電で最大168時間。(1月15日付 日経)

***無鉛ハンダ** 家電製品や半導体基盤の部品接合に欠かせないハンダで、無鉛ハンダの使用を目指す動きが家電メーカーを中心に広がって来ている。(1月15日付 日経)

***社電池工業会** 1月11日開催の質詞交換会において、安田会長が当面環境保全と再資源化の二つを最大目標として積極的に推進していく旨を語る。(1月15日付 化学工業日報)

***日立マクセル** リチウムイオン電池の中国生産の比率を、早い時期に30%まで拡大する予定。(1月16日付 化学工業日報)

***ソニー** 業界最多の21冊の辞書、専門書を収録したIC電子辞書の新製品を2月10日から発売へ。(1月16日付 日経産業)

***ブリジストンサイクル** 電動アシスト自転車の法人向け販路の開拓を開始。第一弾として新開発用製品の販売を開始。2月に発売へ。(1月16日付 日経産業)

***日立製作所** 頭にディスプレイを装着する「ヘッドマウントディスプレイ」を採用したウェアラブルコンピュータを2月28日から出荷する。電池使用で連続3時間の稼働が出来る。(1月16日付 日経産業&日刊工業)

***富士重工** 電気モーターのみで駆動する新タイプのハイブリット車を、2006年までに発売する旨を発表。(1月16日付 日経)

***東邦亜鉛** リサイクル部門の事業体制を強化。使用済乾電池のリサイクル事業等に注力へ。(1月16日付 日刊工業)

***松下電器産業&松下電池工業** 強負荷放電特性を高め、デジタルカメラの撮影枚数を大幅に増やす全く新しい一次電池「ニッケルマンガン電池」単三形を3月20日から発売する旨を発表した。(1月17日付 電波、日経産業&化学工業日報)

***名東化工機(名古屋)** 充電式のケミカルハンディポンプを開発。この開発を開始した。電源はニカド電池で一回の充電で40分の使用が可能。(1月17日付 化学工業日報)

***日本ガス協会** 出力一キロワットクラスの家庭用燃料電池の実証試験第二弾を3月からスタート。第二フェーズでは耐久実証を中心としたテストが行われる。(1月17日付 日刊工業)

***東京電力** 4月から、オフィスビルや工場等にナトリウム硫黄電池のリース事業を開始する。(1月18日付 日経産業)

***松下通信工業** 2月を目処に、CDMAONE方式の携帯電話を出荷する。なお本方式は北米、中国で利用が広がっているが、国内ではKDDIだけが採用中。(1月18日付 化学工業日報)

***日立マクセル** ニッケル新型電池に参入する方針を固める。但し当面、市場規模はそれほど大きくならないと予想して他社からのライセンス生産、又は委託生産も検討する方針。(1月18日付 化学工業日報)

***松下電池工業** 高輝度白色LED採用の小型軽量のリチウムLEDクリップライトを2月10日から発売。CR2032二個使用で約25時間の電池寿命を確保できる。(1月19日付 電波)

***小型燃料電池** 東芝、日立製作所の両社はノートPC等の携帯機器向けの超小型燃料電池を開発中。2003年にも実用化へ。(1月20日付 日経)

***ガートナー・データクエスト(米)** パソコンの2001年の出荷台数が、全世界で前年比4.6%減の1億2806万台になったこと等を発表。(1月21日付 日刊工業&日経産業)

***システック(通信関連機器メーカー、日本)** 携帯電話を鍵代わりに電子錠を解錠するシステムを開発。本格販売へ。(1月21日付 日経産業)

***ゼロスポーツ(自動車用品・部品メーカー)** スポーツカータイプの一人乗りの電気自動車を開発。本年6月を目処に発売する。8時間の充電で80kmの走行が可能。(1月21日付 日経産業)

***東京都** 1月21日、燃料電池車向けの水素供給ステーションの整備を盛り込んだ環境基本計画を策定した。(1月22日付 日経)

***三菱電機** 吸塵力を従来品の3倍にしたスティック型コードレス掃除機を、2月1日から発売する。連続使用時間は約25分。(1月22日付 電波&日経産業)

***YUASA** 中国広東省に自動車用鉛電池の生産会社を設立し、2003年4月を目処に本格生産を始める。尚年間生産能力は100万個。(1月22日付 日刊工業)

***富士写真フイルム** 望遠レンズのついたレンズ付フィルムを3月上旬から発売する。140ミリの望遠撮影が可能。(1月23日付 日刊工業)

***松下電池工業** 用途に応じて二つの光源を選択出来るリチウム2WAYヘッドランプを3月1日から発売する。使用電池はCR123A。(1月23日付 電波)

***環境省** 産業廃棄物と不法投棄問題について懇談会を設置。適正処理確立の方向性を打ち出す考えである。(1月23日付 日刊工業)

***三洋電機** 家庭用燃料電池開発が、最終局面に入る。2004年までに発電効率35%、発売価格一台50万円以下のシステムを発売予定。(1月23日付 化学工業日報)

***三洋電機** 4月から中国でデジタルカメラの生産を開始。初年度は100万台を出荷し、日本等に輸出するほか中国国内でも販売する。(1月23日付 日経)

***タカラ** 一人乗りの電気自動車の製造販売に乗り出す旨を発表。電池の充電時間は8時間、80kmの走行が可能で運転には普通免許が必要。(1月23日付 日経&日経産業)

***ソニー** リチウムイオンポリマー電池の生産規模を来春までに月産150万個に引き上げる。(1月23日付 化学工業日報)

***日本写真機工業会** 2001年のカメラ出荷実績を発表。この中でデジタルカメラの出荷数量は1,475万台で前年比42%増と大きな伸びを見せている。(1月24日付 日刊工業)

***グリーン購入ネットワーク** 企業の環境配慮型製品の販売動向を調査。市場でのシェアは3割であるとの調査結果を発表した。(1月24日付 日経産業)

***住友金属鉱山&三井金属** 1月24日亜鉛事業を4月目処に統合する事で基本的に合意した旨を発表した。(1月24日付 日経&化学工業日報)

***松下電池工業** 乾電池式のコードレス蛍光灯(4W)を2月10日から発売する。単一型アルカリ乾電池4個で連続約15時間の使用が可能。(1月25日付 電波)

***松下電器産業&松下電池工業** 釣り用具の新製品として、替えストップジークラバートップミニウキ3機種、高感度中通しウキ7品種、乾電池式薄型針結び器を2月1日から、順次発売する。(1月25日付 電波)

***シャープ** 携帯電話事業で欧米市場に進出する。欧州の通信会社にはPDA型の携帯電話を今夏から供給、米国にも年内の出荷を目指す。(1月26日付 日経)

***東芝** 携帯できるインターネット接続専用端末を開発。2002年に個人向けに販売へ。(1月28日付 電波)

***日産自動車** 燃料電池車について、2005年までに市販可能な技術開発を完了する事などを柱とした中期環境計画を纏める。(1月29日付 日経)

***日立マクセル** 2002年度にDVDディスクの生産を増加させる事、電池については中国生産を大幅に増加させる事を各々発表。(1月29日付 電波)

***淀川化成(樹脂成形メーカー)** リチウムイオン電池の電解液の漏れ防止用シール材の製造販売の子会社を中国(上海)に設立した。(1月29日付 日経)

***シチズン時計** 体温と外気の温度差を利用して発電する腕時計が、環境配慮型商品として人気が高まってきている為、増産、国内販売の比重を50%に引き上げ。(1月29日付 日経産業)

***ベライゾン・ワイヤレス(米)** 第三世代携帯電話(3G)サービスを始めた旨を発表。3Gサービスの事業化は日本が先行していて米国ではベライゾンが始めて。(1月29日付 日経)

***ヤマハ発動機** 蓄電量の多い電池の搭載で、最長走行距離を従来の1.4倍に伸ばした電動補助付き自転車の新製品を2月15日から発売。(1月29日付 日経産業)

***松下電器産業&ナショナル自転車工業** モーターを取り外して充電器の上に置くだけで充電できる電動自転車二機種を3月25日から発売。(1月30日付 日経産業)

***YUASA** 英国に設置している自動車用バッテリーの生産子会社を売却する方針を固める。事業再構築の一環で来期には実現する見込み。(1月30日付 化学工業日報)

***東芝電池** 電池の販売で、用途を明確にした「用途別カメラ」戦略を本格的に推進。デジタルカメラに用途を絞った新型ニッケル電池の投入に続き、今後も用途を明確に絞ったラインアップ拡大に乗り出す。(1月30日付 化学工業日報)

***松下電池工業** 殺虫剤大手のフマキラーと共同で虫除け機能付きランタンを開発。4月1日から発売する。(1月30日付 化学工業日報)

***PDA** 2002年は市場が拡大、国内需要は220万台~250万台、又世界需要はパソコン需要のほぼ1割の約1200万台になる見込み。(1月31日付 電波)

***辻プラスチック(滋賀県)** 太陽電池と電気二重層コンデンサーによる蓄電システムを応用した、光るタイプの販売を拡大する。尚当社は同コンデンサーをバッテリー代わりに使う太陽電池電源システムの特許実施権を取得している。(1月31日付 日経産業)

平成14年 2月度の電池工業会活動概要

部会	2月度開催日	委員会・会議	主な審議、決定事項
特別会議	5日(火)	ニッケル水素蓄電池 JIS標準化本委員会	*JIS C 8708改定の審議
	14日(木)	広報統合化準備委員会	*統合化後の広報委員会規程とW・Gテーマの検討
	14日(木)	広報総合委員会	*統合化後の広報委員会規程とW・Gメンバー案の検討
二次電池部会	4日(月)	(自)リサイクル特別プロジェクト	*自動車電池(二輪含む)の新リサイクルスキーム検討
	5日(火)	二次電池リサイクル(委)拡大事務局	*産業用電池新リサイクルスキーム審議
	6日(水)	二次電池部会(鉛5社)	*自動車電池(二輪含む)のリサイクルスキーム審議
	6~7日	(自)リサイクル特別プロジェクト	*自動車電池(二輪含む)の新リサイクルスキーム検討
	8日(金)	二次電池リサイクル(委)拡大事務局	*産業用電池新リサイクルスキーム審議
	8日(金)	電気車鉛分科会	*日本規格協会提出用のJIS D 5303の内容確認。電槽の材質表示
	13日(火)	二次電池リサイクル(委)拡大事務局	*産業用電池新リサイクルスキーム審議
	13日(火)	自動車鉛分科会	*IEC会議宿題事項。JIS D 5302(二輪)解説案
	14日(水)	(自)リサイクル分科会	*14年度計画、沖縄地域における電池回収実態調査の検討
	14日(水)	用語分科会	*規格票作成マニュアルの作成
	14~15日	(自)リサイクル特別プロジェクト	*自動車電池(二輪含む)の新リサイクルスキーム検討
	15日(金)	自動車用鉛電池需要予測小委員会	*平成13年度の見直しと平成14年度の予測検討
	18~19日	(自)リサイクル特別プロジェクト	*自動車電池(二輪含む)の新リサイクルスキーム検討
	19日(火)	据置鉛分科会	*SBA指針(制御弁式電池の取扱い指針)改正案。IEC規格案へのコメント
	20日(水)	二次電池リサイクル(委)拡大事務局	*産業用電池新リサイクルスキーム審議
	22日(金)	資材小委員会	*部品統合、共用金型の検討
	22日(金)	自動車用電池技術サービス小委員会	*ホームページの内容更新案。全整連の電気装置設備テキスト改正案
	26日(火)	電気車鉛分科会	*SBA規格2件、SBA指針1件の印刷前の詳細確認
	26~27日	(自)リサイクル特別プロジェクト	*自動車電池(二輪含む)の新リサイクルスキーム検討
28日(木)	(自)市販小委員会	*14年度計画、販路別需要動向の検討	
小形二次電池部会	5日(火)	小形二次電池広報委員会	*広報統合化検討と推進センターとの役割分担等の確認
	6日(水)	安全性ガイドライン策定WG	*ガイドライン・ワーキングペーパー(和・英)の作成、評価試験項目の検討
	13日(火)	リチウム二次分科会	*IEC統合機械試験規格、統合安全規格、リチウム二次電池規格の原案内容審議
	14日(水)	小形シール鉛分科会	*リサイクラーにおける実態調査結果、表示ガイドラインの検討
	14日(水)	再資源化委員会リチウムイオン分科会	*再資源化マニュアルの推進:排出量の推定方法(確立密度関数)
	15日(木)	ニカド・ニッケル水素分科会	*IEC統合機械試験規格、統合安全規格の回答原案内容審議
	15日(木)	再資源化委員会識別表示WG	*識別表示ガイドラインの見直し
	19日(火)	経済産業省資源循環指標調査検討委員会	*資源循環関係の指標の検討:回収率・再資源化率の定義など
	20日(水)	第121回再資源化委員会	*識別表示ガイドラインの検討、資源循環指標検討委員会の対応など
	22日(金)	小形二次技術委員会	*JIS/IEC規格審議状況の確認、IECフシントン会議への対応検討
	22日(金)	第3回回収調査委員会	*回収率目標設定のための調査:消費者動向調査結果の検討
	25日(月)	業務委員会	*平成14年1月の出荷実績の検討、2002~2004年の需要予測
	26日(火)	安全性ガイドライン策定WG	*第2回PRBAフォーラム結果の確認と今後の対応審議
	27日(水)	第118回・海外環境委員会	*平成14年度の計画案検討。TWG宿題及び規制法等の確認
	28日(木)	第12回・国連対応委員会	*試作品発送国承認システム案及び第3回日米業界会議の検討
28日(木)	特殊金属プロジェクト委員会	*電池関係のレアメタル使用量の調査:報告書の検討	
一次電池部会	1日(金)	PL委員会	*暮らしの中の電池NO-3、及び安全確保の為の表示ガイドラインの校正と纏め
	6日(水)	第5回循環技術委員会	*4月の第1回委員会開催時、処理工場2箇所の見学実施を決定
	7日(木)	第5回循環対応委員会	*3月に発売予定される新製品の環境対応の考え方を検討
	7日(木)	器具委員会	*2002年度活動計画の纏めと主査の確認
	15日(金)	第4回調査統計小委員会	*平成14年度より本委員会を業務委員会に統合することを決定
	15日(金)	乾電池業務委員会	*2002年度活動計画の纏めと新委員長の確認
	20日(水)	広報委員会	*手作り乾電池教室等の分担会社の確認
	20日(水)	JIS小委員会	*JIS C 8511、JIS K 1467、JIS K 1469 改正原案の審議
	20日(水)	IEC小委員会	*水溶液系電池の安全性規格のメンテナンス審議
	20日(水)	リチウムWG	*リチウム電池輸送安全性規格CD案の審議
	21日(木)	一次電池技術委員会	*JIS/IEC規格審議状況の確認、ニッケル系一次電池の区分検討

●●●●● 新製品ニュース ●●●●●

高性能アルカリ乾電池単3形・単4形を発売

松下電器産業(株)と松下電池工業(株)は、各種デジタル機器の普及に対応して、前年に引き続き、強負荷パルス放電時の性能をさらに約20%^{*1}向上させた単3形、および約10%^{*1}向上させた単4形高性能アルカリ電池を、従来と同価格で3月1日から発売します。

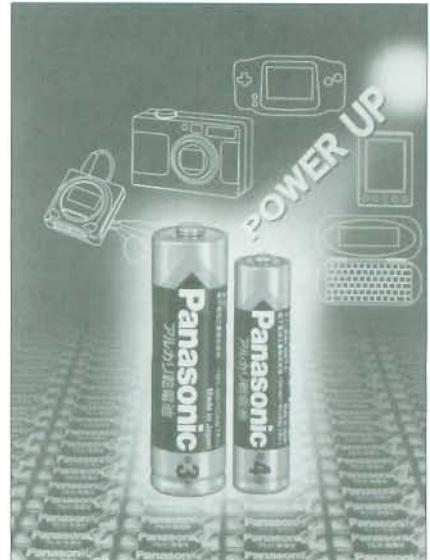
[特長]

1. 単3形は、強負荷パルス時の放電性能を約20%^{*1}向上
・パナソニックデジタルカメラ「PV-DC3000J」で、82枚撮影可能(従来品では68枚)
2. 単4形は、強負荷パルス放電性能を約10%^{*1}向上
3. 低電流連続放電時においても従来性能を維持

^{*1} 当社従来品比。単3形 1000mA・単4形 600mA負荷で、10秒オン、50秒オフのパルス繰り返し放電時。終止電圧1.0Vの時。

〈技術のポイント〉

- ・単3形は電池内部のセパレータを薄肉化することにより正極、負極の内部活物質の充填量を増やし、高容量化と共に、強負荷パルス放電特性を約20%^{*1}向上しました。
- ・単4形はセパレータの薄肉化とともに新しい底紙を採用、活物質の充填量を増やし、強負荷パルス放電特性を約10%^{*1}向上しました。



ニッケルマンガン電池単3形を発売 業界初 デジタルカメラ用の新一次電池

松下電器産業(株)と松下電池工業(株)は、デジタルカメラの急速な普及に対応して、現行アルカリ乾電池に比べ強負荷放電性能を高め、デジタルカメラ使用時の撮影枚数を大幅に増やした全く新しい一次電池^{*1}ニッケルマンガン電池単3形を、業界に先駆けて3月20日から発売します。

本製品は、正極材料に独自のニッケルとマンガンを使用するなど長年の乾電池要素技術を応用した、高出力を有するデジタルカメラ用電池です。

[特長]

1. デジタルカメラでの撮影枚数が大幅アップ(当社比)
撮影枚数143枚(アルカリ乾電池では47枚。コダックDX3600を使用^{*2})
2. 現行アルカリ乾電池の保存特性を確保
3. 電池の未使用、使用済が見分けられる「見分けるパック」仕様

〈新技術〉

1. デジタルカメラでの高出力実現のため、オキシ水酸化ニッケル^{*3}を新たに開発。
2. 保存特性を高めるため、
 - (1) 新添加剤を採用。
 - (2) オキシ水酸化ニッケル^{*3}と二酸化マンガンの最適配合を実施。

^{*3} オキシ水酸化ニッケルとは、水酸化ニッケルを酸化させたもの。

〈特許件数〉申請中を含め、10件。

前回の新製品ニュースの中で松下電池工業(株)の高性能アルカリ乾電池とニッケルマンガン電池の写真が逆に印刷されていました。間違いをお詫びするとともに、正確を期すため、再度掲載を致します。

12月度電池および器具販売実績(機械統計)

(平成13年12月)

単位:数量=千個、金額=百万円

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
電池・器具総合計	597,853	68,452	87%	85%	6,395,918	731,960	87%	85%
全電池合計	596,762	66,462	87%	85%	6,384,475	712,817	87%	85%
一次電池計	452,633	18,983	87%	88%	4,696,449	172,345	91%	88%
マンガン乾電池計	121,848	3,105	91%	83%	1,194,447	25,978	89%	84%
単一	19,626	1,086	82%	79%	145,544	7,776	87%	86%
単二	11,349	447	86%	81%	85,071	3,192	77%	76%
単三	67,062	1,175	98%	86%	661,027	10,559	97%	88%
その他	23,811	397	84%	87%	302,805	4,451	79%	76%
アルカリ乾電池計	184,157	10,522	91%	91%	1,500,706	83,364	91%	91%
単三	114,652	5,501	90%	90%	961,996	46,583	96%	97%
単四	35,306	1,842	88%	85%	317,651	16,835	77%	76%
その他	34,199	3,179	99%	97%	221,059	19,946	94%	95%
酸化銀電池	70,831	859	85%	85%	951,713	10,841	96%	89%
リチウム電池	70,977	4,268	73%	84%	1,000,305	49,966	87%	85%
その他の乾電池	4,820	229	111%	85%	49,278	2,196	102%	94%
二次電池計	144,129	47,479	88%	84%	1,688,026	540,472	78%	84%
鉛電池計	4,204	15,427	86%	87%	44,335	153,266	91%	96%
自動車用	2,775	10,933	96%	93%	24,686	87,267	98%	95%
二輪用	403	698	80%	76%	4,900	9,004	88%	87%
小形シール	832	851	67%	65%	11,834	12,120	77%	79%
その他	194	2,945	77%	80%	2,915	44,875	108%	106%
アルカリ電池計	98,280	11,110	83%	78%	1,187,178	138,999	73%	73%
完全密閉式	40,361	4,669	80%	85%	531,936	58,404	87%	86%
ニッケル水素	57,903	6,102	85%	73%	655,047	76,538	65%	65%
その他のアルカリ電池	16	339	84%	90%	195	4,057	81%	83%
リチウムイオン電池	41,645	20,942	101%	84%	456,513	248,207	96%	84%
器具計	1,091	1,990	96%	110%	11,443	19,143	83%	97%
携帯電灯	564	483	83%	79%	6,226	6,033	75%	78%
電池器具	527	1,507	115%	125%	5,217	13,110	96%	110%

12月度電池輸出入実績(財務省貿易統計)

(平成13年12月)

単位:数量=千個、金額=百万円(少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります)

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計(輸 出)	287,711	30,940	86%	81%	3,361,839	360,363	84%	79%
一次電池計	160,158	3,423	83%	83%	1,975,397	41,744	91%	88%
マンガン	54,640	439	109%	110%	598,906	4,943	99%	97%
アルカリ	23,312	487	70%	82%	291,510	5,322	85%	85%
酸化銀	34,124	440	87%	92%	418,883	5,158	100%	98%
リチウム	44,854	1,972	68%	76%	633,978	25,389	85%	86%
空気亜鉛	2,579	54	144%	166%	22,998	447	100%	103%
他の一次	648	30	47%	79%	9,123	486	27%	45%
二次電池計	127,554	27,517	90%	81%	1,386,442	318,619	75%	78%
鉛蓄電池	408	679	48%	57%	6,144	10,301	69%	82%
ニカド	33,346	3,121	84%	91%	426,089	38,677	85%	82%
ニッケル鉄	0	1	120%	127%	226	34	23%	35%
ニッケル水素	47,690	4,631	87%	69%	498,415	55,269	61%	57%
リチウムイオン	35,610	16,636	100%	82%	346,554	186,468	93%	83%
その他の二次	10,500	2,450	105%	96%	109,013	27,870	79%	98%
全電池合計(輸 入)	46,051	3,934	104%	96%	481,784	42,594	108%	102%
一次電池計	43,723	1,234	118%	93%	440,633	12,628	118%	120%
マンガン	12,690	178	139%	141%	125,768	1,767	106%	106%
アルカリ	26,381	501	100%	85%	278,957	5,775	120%	107%
酸化銀	499	8	1142%	397%	4,390	96	735%	403%
リチウム	801	129	116%	167%	15,643	1,242	117%	119%
空気亜鉛	258	11	294%	182%	3,260	140	93%	104%
他の一次	3,094	407	448%	78%	12,615	3,607	378%	158%
二次電池計	2,327	2,700	32%	97%	41,151	29,966	55%	96%
鉛蓄電池	489	1,617	87%	100%	5,645	16,023	98%	114%
ニカド	1,353	445	126%	103%	14,449	4,783	88%	76%
ニッケル鉄	38	4	>>>	332%	76	46	993%	309%
ニッケル水素	-	-	-	-	-	-	-	-
リチウムイオン	-	-	-	-	-	-	-	-
その他の二次	448	633	8%	87%	20,981	9,114	40%	84%